

令和5年度
(令和5年4月～令和6年3月)

環境経営レポート



令和6年7月1日

公益財団法人 北九州観光コンベンション協会

I (公財) 北九州観光コンベンション協会 概要

当協会は、北九州市が中心となって設立された(財)西日本産業貿易見本市協会(昭和51年設立)が(財)北九州コンベンションビューロー(平成2年設立)を平成17年7月に統合し、(財)西日本産業貿易コンベンション協会となりました。

旧西日本産業貿易見本市協会設立以来、西日本総合展示場本館の管理運営をはじめとして、多様な見本市・展示会の開催に取り組んでまいり、統合後は、学会・大会などの誘致活動事業を加え、地域産業の発展や文化の向上、国際交流の促進などに寄与しています。

併せて、北九州市所有の公共施設である北九州国際展示場(西日本総合展示場新館)と北九州国際会議場の管理運営を指定管理者として受託しており、地域の産業振興・政策体现・集客やにぎわいづくり等をはじめとした、MICE にかかる中核を担う組織として積極的に活動しています。

さらに、平成23年6月には福岡県知事により、公益財団法人への移行認定を受けました。

そして平成29年4月に(公社)北九州市観光協会と合併し、現在の(公財)北九州観光コンベンション協会となりました。

当協会は、北九州市のMICE誘致、地域産業や観光の振興、にぎわいづくりに継続的に取り組み、更なる飛躍と公益の追求を目指してまいります。

(1) 法人名及び代表者

公益財団法人 北九州観光コンベンション協会

理事長 津田 純嗣(令和3年9月就任)

(2) 所在地

協会事務所：北九州市小倉北区浅野三丁目8番1号 西日本総合展示場新館2F
同 AIMビル4F

北九州おみやげ館：北九州市門司区東港町6-7 2 港ハウス1F

(3) 環境管理責任者及び担当者

責任者 事務局長 丸山 保

担当者 総務部総務課長 小林 真一

TEL 093-511-6848 FAX 093-521-8845

(4) 事業規模

役員数(理事・監事・評議員) 20名 職員数 62名

基本財産 1,983百万円(令和6年3月31日現在)

令和5年度支出予算額 1,228百万円

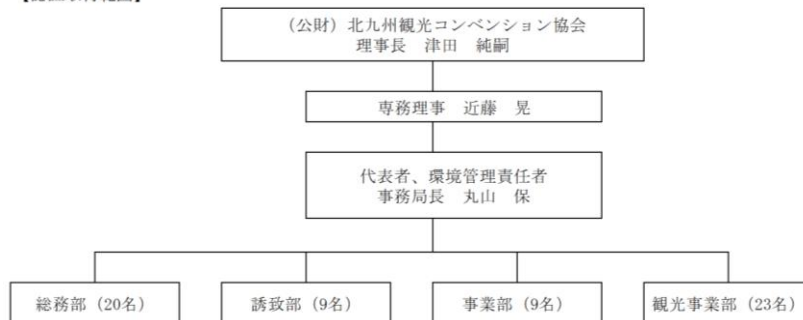
(5) 事業年度 4月～翌年3月

(6) 認証・登録範囲 対象事業所：協会事務所、北九州おみやげ館

対象活動：MICE・観光事業で主に施設管理に係る事業活動

(7) 組織及び活動【EA21 実施体制(組織)】 令和5年4月1日時点

【認証取得範囲】



【活動(事業)内容】

- (1) 内外の工業製品等の展示会、見本市等の開催、誘致及び支援
- (2) 各種会議、大会等コンベンションの誘致及び支援
- (3) 観光客の誘致及び滞在化促進
- (4) 各種展示会、コンベンション及び観光等に関する広報及び宣伝
- (5) 観光に関する調査・企画及び情報の収集・提供
- (6) コンベンション及び観光に関する人材の育成及び啓発
- (7) 特産品の紹介・宣伝・販路開拓
- (8) 第1号、第2号及び観光の事業の用に供する施設の管理・運営
- (9) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

Ⅱ 環境経営方針

環境経営方針

公益財団法人北九州観光コンベンション協会は、環境首都を目指す北九州市の外郭団体として、環境への取り組みを高い意識を持って進め、環境負荷の低減など持続可能な社会の発展と調和した環境保全活動の継続的改善に努めます。

- 1 全職員の環境保全に対する意識や知見を高め、自主的、積極的に実践するよう取り組みます。
- 2 主催事業、コンベンションの開催及び施設の運営・管理等、協会のすべての事業活動において、二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、水使用量の削減をはじめ、省資源、省エネルギーに努めます。また、環境配慮商品の使用に努めます。
- 3 環境保全に関わる事業や展示会、学会等の企画・開催、支援を推進し、社会への環境関連情報の普及や関心の向上、地域の環境保全活動等に貢献します。
- 4 環境経営レポートを作成し、環境取組の状況を公表します。
- 5 当協会の事業活動に関わる環境関連法規を遵守します。

令和6年 7月 1日

公益財団法人 北九州観光コンベンション協会

理 事 長 津 田 純 嗣

専 務 理 事 近 藤 晃

事 務 局 長 田 原 温

Ⅲ 環境経営目標及び環境経営計画

1—1 中期環境経営目標（基準年度：令和4年度）（全体）

環境経営目標	単位	令和4年度 【基準】 （4年4月 ～5年3月）	令和5年度 （5年4月 ～6年3月）	令和6年度 （6年4月 ～7年3月）	令和7年度 （7年4月 ～8年3月）
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	600,070	600,000	600,000	600,000
ガス使用量の削減	m ³	216,323	216,000	216,000	216,000
ガソリン使用量の削減	ℓ	1,971	1,900	1,900	1,900
廃棄物排出量の削減	t	25,160	25,000	25,000	25,000
水使用量の削減	m ³	10,400	10,000	10,000	10,000
環境関連事業の推進	エコテクノ 入場者数 出展社数	13,749 人 56 社	20,000 人 100 社	20,000 人 100 社	20,000 人 100 社
環境配慮活動の使用推進	グリーン電力 グリーン購入	グリーン電力 グリーン購入	グリーン電力 グリーン購入	グリーン電力 グリーン購入	グリーン電力 グリーン購入

※当協会の場合、化学物質対策として環境目標に定めて取り組むべき該当項目はない。

※購入電力の排出係数については、九州電力の平成30年度調整後排出係数 0.347kg-CO₂/kWh、北九州パワーの平成30年度調整後排出係数 0.038kg-CO₂/kWh を適用。

※令和4年度の実績を基準値として目標設定を算出。

2—1 令和5年度環境経営計画（全体）

1 二酸化炭素排出量の削減

取組目標		活動項目	
	電気使用量の削減	1	空調の必要性に留意し、基準温度を夏期間28℃、冬期間19℃とする。
		2	不要電力消費の抑制（不要箇所の消灯）を心掛け、長時間席を離れる時（2時間以上）はパソコンの電源を落とすまたは、スタンバイにする。
		3	トイレのエアタオルの使用削減に努める。
		4	近い階への移動は階段を利用する。
2	燃料使用量の削減	1	公用車の利用は必要最低限とし、近場への移動は自転車（シェアサイクル）を利用する。
		2	公用車の購入は低燃費、低排出等の環境性能を必ず考慮する。
		3	エコドライブを心掛け、一時駐車の際のアイドリングをしない。

2 廃棄物排出量の削減

取組目標		活動項目	
1	一般廃棄物の削減	1	ペットボトルキャップの回収、空き缶プルトップの回収を行い、廃棄を削減。併せてボランティア活動にも取り組む。
		2	パンフレット等の作成時に、必要部数を精査し無駄のないよう心掛ける。
		3	DM や郵送物の顧客を整理し、宛名不明等による戻りの削減に努める。
2	産業廃棄物の削減	1	会場利用者へ協力を呼びかける。
3	3R の推進	1	コピー用紙の無駄を無くし、裏紙の利用の徹底や両面コピーを心掛ける。
		2	展示会での備品等のリユース等を心掛ける。
		3	新聞やパンフレット等の古紙をリサイクルする(業者に回収委託)。
		4	かん・瓶・ペットボトルを分別回収し、リサイクルする(業者に回収委託)。

3 水使用量の削減

取組目標		活動項目	
1	水使用量の削減	1	節水を呼びかける啓発シールを貼る。
		2	配管の点検を行う。

4 環境関連事業の推進

取組目標		活動項目	
1	環境関連事業の推進	1	環境系展示会等の充実を図る。
		2	利用者への働きかけのポスター、ステッカー等を掲示する。

5 環境配慮活動の推進

取組目標		活動項目	
1	環境配慮活動の推進	1	カーボンオフセットの推進に努める。
		2	周辺美化等への参加を推進する。

2—2 令和5年度環境経営目標及び環境経営計画と経過内容（部課別）

〔総務部 営業課〕

環境経営目標及び環境経営計画		
1	エネルギー利用の削減	営業車の走行距離の把握。 低燃費車への更新・導入検討。
2	環境関連ビジネスへの積極的な営業	再生可能エネルギー等による電力の販売や節電、カーボンオフセット関連セミナー誘致等の営業活動を行う。

〔総務部 サービス課〕

環境経営目標及び環境経営計画		
1	新館利用者 天井照明75%点灯標準化推進 (利用者の天井照明25%削減)	施設利用者への天井照明75%実施にかかる依頼文配付など節電の働きかけを行う。特に、会場視察時は最小限の明るさで対応する。
2	環境負荷の少ない電球の購入推進	調光可能なLED、蛍光型電球の更新エリアの調査及び仕入れ価格を調査・確認する。(一部更新・導入済み)

〔誘致部 コンベンション誘致課〕

環境経営目標及び環境経営計画		
1	外出時のPC電源OFF、 内部資料両面コピーの徹底	新PC導入にあたって、自動スリープモード機種を導入。併せて職員の意識づけと周知徹底を図る。
2	公用車の相乗り営業 本庁徒歩営業 公共交通機関活用営業	営業時の声掛け等周知を徹底する。 近場への移動は徒歩や自転車(シェアサイクリング)を利用する。

〔事業部 事業課〕

環境経営目標及び環境経営計画		
1	展示会開催時の電力使用量の削減	展示会場内の温度や照明の明るさが適正か常に把握し、こまめな調整を行う。
2	ポスター等へのエコ印刷の導入	環境配慮用紙やインキの調査。
3	来場者に対する公共交通機関来場の周知を行う	実施方法の検討を行う。

〔事業部 イベント事業課〕

環境経営目標及び環境経営計画		
1	小倉駅新幹線口地区振興連絡会 において、環境意識を醸成する	会員及び会員以外にも参加を呼びかけ、新幹線口地区において定期的に清掃活動を実施。

[観光事業部 総務企画課]

環境経営目標及び環境経営計画		
1	外出時のPC電源OFFによる電力使用量の削減	日常業務において、職員への意識づけと周知徹底を図る。
2	印刷物の適正部数の制作の徹底	年4回制作する広報物について、必要部数を精査し無駄がでないよう心掛ける。

[観光事業部 物産振興課]

環境経営目標及び環境経営計画		
1	退席中のPC電源OFFによる電力使用量の削減	日常業務において、職員への意識づけと周知徹底を図る。
2	コピー用紙の再利用等による3Rの推進	ミスプリントしたコピー用紙を裏紙として再利用するなど、日常業務から取り組む

IV 環境負荷実績

1—1 令和5年度の環境負荷目標及び実績

【西日本総合展示場本館】施設稼働率：62.7% 入場者数：321,355人

環境負荷項目	単位	目標値	実績値	達成率(%)	評価
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	103,000	107,762	95.59	○
	kg-CO ₂ ・施設稼働率補正值	-	171,869	-	-
	kg-CO ₂ /人	0.32	0.34	94.12	○
排水量の削減	m ³	2,500	1,618	154.51	○
	m ³ ・施設稼働率補正值	-	2,580	-	-
	m ³ /人	0.02	0.01	200.00	○

【西日本総合展示場新館】施設稼働率：81.4% 入場者数：653,275人

環境負荷項目	単位	目標値	実績値	達成率(%)	評価
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	306,000	356,298	85.88	○
	kg-CO ₂ ・施設稼働率補正值	-	437,712	-	-
	kg-CO ₂ /人	0.89	0.55	161.82	○
排水量の削減	m ³	5,200	6,029	86.25	○
	m ³ ・施設稼働率補正值	-	7,406	-	-
	m ³ /人	0.02	0.01	200.00	○

【北九州国際会議場】施設稼働率：95.4% 入場者数：83,784人

環境負荷項目	単位	目標値	実績値	達成率(%)	評価
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	185,000	203,543	90.89	○
	kg-CO ₂ ・施設稼働率補正值	-	213,357	-	-
	kg-CO ₂ /人	4.10	2.43	168.72	○
排水量の削減	m ³	2,300	2,673	86.05	○
	m ³ ・施設稼働率補正值	-	2,801	-	-
	m ³ /人	0.05	0.03	166.67	○

【3施設合計】

環境負荷項目	単位	目標値	実績値	達成率(%)	評価
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	594,000	667,603	88.98	○
	kg-CO ₂ ・施設稼働率補正值	-	822,938	-	-
	kg-CO ₂ /人	0.83	0.63	131.75	○
廃棄物排出量の削減	t	25.00	32.29	77.42	△
	t・施設稼働率補正值	-	-	-	-
	t/千人	0.04	0.03	133.33	○

排水量の削減	m ³	10,000	10,320	96.90	○
	m ³ ・施設稼働率補正值	-	12,787	-	-
	m ³ /人	0.01	0.01	100.00	○

※施設稼働率：日数稼働率（利用日／利用可能日）。

※施設稼働率補正值：施設が100%使用された場合の数値（当該年度の実績値÷稼働率×100）で算出するもの。

※（単位）/人：1人あたりの排出量。なお、目標値の母数となる入場者数は、前年度実績を参考とするもの。

【令和4年度】西日本総合展示場本館：321,355人

西日本総合展示場新館：344,915人

北九州国際会議場：45,073人

※達成率：目標値/実績値で算定するもの。

※評価：各項目の達成率に応じて、3段階で示すもの。

- ・○：80%～、
- ・△：60～79%
- ・×：～59%

※廃棄物排出量（自社）については、施設ごとの算出が困難なため、合算により集計するもの。

【観光事業部（AIMビル4F）】

環境負荷項目	単位	目標値	実績値	達成率(%)	評価
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	3,400	5,082	66.90	△

【北九州おみやげ館】

環境負荷項目	単位	目標値	実績値	達成率(%)	評価
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	2,200	2,522	87.23	○

【観光事業部合計】

環境負荷項目	単位	目標値	実績値	達成率(%)	評価
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	6,000	7,604	78.91	△

【全施設合計】

環境負荷項目	単位	目標値	実績値	達成率(%)	評価
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	600,000	675,207	88.87	○
廃棄物排出量の削減	t	25.00	32.29	77.42	△
排水量の削減	m ³	10,000	10,320	96.90	○

2—1 過去の環境負荷実績

【西日本総合展示場本館】

環境負荷項目	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	85,701	115,652	102,863	107,762
	kg-CO ₂ ・施設稼働率補正值	245,556	126,395	143,072	171,869
排水量の削減	m ³	1,975	2,062	2,657	1,618
	m ³ ・施設稼働率補正值	5,659	2,253	3,867	2,580

【西日本総合展示場新館】

環境負荷項目	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	212,901	249,744	306,262	356,298
	kg-CO ₂ ・施設稼働率補正值	461,824	380,707	392,643	437,712
排水量の削減	m ³	4,098	5,019	5,354	6,029
	m ³ ・施設稼働率補正值	8,889	7,650	6,864	7,406

【北九州国際会議場】

環境負荷項目	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	129,861	180,773	185,337	203,543
	kg-CO ₂ ・施設稼働率補正值	209,791	215,719	196,331	213,357
排水量の削減	m ³	1,670	2,292	2,389	2,673
	m ³ ・施設稼働率補正值	2,698	2,735	2,530	2,801

【3施設合計】

環境負荷項目	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	428,463	546,169	589,890	667,603
	kg-CO ₂ ・施設稼働率補正值	917,171	722,821	732,046	822,938
廃棄物排出量の削減	t	5.33	26.5	25.16	32.29
	t・施設稼働率補正值	—	—	—	—
排水量の削減	m ³	7,743	9,373	10,400	10,320
	m ³ ・施設稼働率補正值	17,246	12,638	13,261	12,787

※ 施設稼働率補正值…施設が100%使用された時の数値（当該年度の実績値÷稼働率×100）で算出

【観光事業部（A I Mビル4 F）】

環境負荷項目	単位	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和5年度
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	5,068	4,724	3,400	5,082

【北九州おみやげ館】

環境負荷項目	単位	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和5年度
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	2,312	2,039	2,207	2,522

【観光事業部合計】

環境負荷項目	単位	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	7,380	6,763	5,607	7,604

【全施設合計】

環境負荷項目	単位	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	435,838	552,933	600,070	675,207
廃棄物排出量の削減	t	5.33	26.5	25.16	32.29
排水量の削減	m ³	7,743	9,373	10,400	10,320

2-2 令和5年度の環境関連事業実績

- ・ エコテクノ2023～地球環境ソリューション展～（自主開催見本市）
： 7月5日～7月7日
- ・ エコテクノ2023～エネルギー先端技術展～（自主開催見本市）
： 7月5日～7月7日
- ・ 自衛消防訓練（職員火災訓練）： 8月30日、11月29日、2月21日
- ・ 周辺美化活動： 毎月 ※天候やコロナの影響により実施できなかった月あり。
- ・ Loveあさのクリーンアップ活動（清掃活動）
： 4月26日／160名参加
9月27日／198名参加
- ・ クールビズ（空調28℃設定）： 夏期（4月1日～10月31日）
- ・ ウォームビズ（空調19℃設定）： 冬期（11月1日～令和6年3月31日）



エコテクノ2023



エコテクノ2023（セミナー）



Loveあさのクリーンアップ活動



消防訓練

V 環境経営計画と取組結果の評価および次年度の環境経営目標

1 二酸化炭素排出量の削減

【目標の結果と評価】

全施設合計の二酸化炭素排出量目標 6 0 0, 0 0 0 kg-CO₂ に対し、実績は 6 7 5, 2 0 7 kg-CO₂ であった。排出量増加の要因として、2 点が挙げられる。1 点目は、催事件数や施設利用者数が令和元年度以前に戻りつつある状況であり、2 点目は、E A 2 1 認証取得範囲に「観光事業部」を新たに含めたことである。

令和 6 年度以降についても、対象となる全施設において前年度実績を基準に目標値を設定し二酸化炭素排出量の削減に向けた取り組みを継続する。

取組目標	活動内容	取組結果・評価	判定
電気使用量の削減	空調の必要性に留意し、基準温度を夏期間28℃、冬期間19℃とする。	クールビズ（夏期:4月～10月）ウォームビズ(冬期:11月～3月)を全館で実施している。	5
	不要電力消費の抑制（不要箇所の消灯）を心掛け、長時間席を離れる時(2時間以上)はパソコンの電源を落とすかスタンバイにする。	一部(事務所トイレ、通路等)を人感センサー対応の照明にしている。業務時間外(昼休み等)については消灯実施。また不要箇所の消灯については課で管理担当者を定め節電に取り組んだ。	5
	トイレのエアタオルの使用頻度の低減に努める。	事務所トイレに設置しているエアタオルは感染症対策も兼ねるが、必要最小限の使用を呼び掛けている。	4
	近い階への移動は階段を利用する。	事務改善の推進として心掛けている。1人1人の意識改善が必要である。	3
燃料使用量の削減	公用車の利用を必要最低限とし、近隣への移動に自転車を利用する。	シェアサイクリングサービスによる自転車の利用を促している。 天候や用件により不可能な場合も多い。	3
	車両を購入する際は、低燃費、低排出等を必ず考慮する。	車両を購入する際、エコを標準仕様として購入。現在9台(うち、市所有2台)ある車両のうち、6台(うち、市所有0台)についてはエコカーである。	5
	エコドライブを心掛け、一時駐車の時アイドリングをしない。	走行距離や燃料等の管理を行っている。駐車の際にはエンジンを停止している。	5

2 廃棄物排出量の削減

【目標の結果と評価】

全施設合計の廃棄物排出量目標 2 5 t に対し、実績は 3 2. 2 9 t であった。これは、3 施設（西日本総合展示場本館・新館、北九州国際会議場）の利用件数が増加したことが大きな要因であるが、施設利用者のごみ削減に向けた努力により、目標値を大幅に超過することはなかったものと考えられる。

令和 6 年度以降についても、対象となる全施設において前年度実績を基準に目標値を設定し廃棄物排出量の削減に向けた取り組みを継続する。

取組目標	活動内容	取組結果・評価	判定
廃棄物の削減	ペットボトルキャップ・空き缶プルトップ等の回収を行い、廃棄の削減と共にボランティア活動に協力する。	ごみの分別を徹底し、ペットボトルキャップ・空き缶プルトップ・使用済テプラの回収を行い、個々の再利用意識の向上に努めた。(ペットボトルキャップはボランティア団体へ寄贈)	5
	パンフレットやチラシ等を作成時、必要部数を精査し無駄の無いよう心掛ける。	実績を精査し必要部数にほぼ等しい数量を作成するようにしたため、残数はほとんど生じなくなった。	5
	DMや郵送物の顧客を整理し、宛名不明等による戻りの削減に努める。	毎回、顧客整理を行い、最新の顧客情報に更新することで、宛名不明等の DM の戻り率が削減した。	4
3Rの推進	コピー用紙の無駄を無くし、裏紙の利用徹底や、両面コピーを心掛ける。	職員1人1人が意識して取り組んだ。	4
	展示会で使用する備品等のリユースを心掛ける。	パネルのリユースや、カーペット利用の削減等を心掛けている。	5
	新聞やパンフレット等の古紙をリサイクルする(業者に回収委託)。	事務所に古紙回収ボックスを設けて、意識して取り組んだ。	5
	かん・瓶・ペットボトルの分別回収を行い、リサイクルする(業者に回収委託)。	分別用にごみ箱を設置し意識的に取り組んだ。	5

3 水使用量の削減

【目標の結果と評価】

全施設合計の排水量目標 10,000 m³に対し、実績は10,320 m³となり、若干増加する結果となった。3施設の利用件数が増加したことが大きな要因であるが、施設利用者への節水の呼びかけや、職員一人一人が節水を心がけたため、目標値を大幅に超過することはなかったものと考えられる。

令和6年度以降についても、対象となる全施設において前年度実績を基準に目標値を設定し水使用量の削減に向けた取り組みを継続するものとする。

取組目標	活動内容	取組結果・評価	判定
水使用量の削減	節水を呼びかける啓発シールを貼る。	事務所の給湯室、会議場トイレ等で実施済。	5
	配管の点検を行う。	定期点検は行っていないが、異常を察知した場合は即時に対応をしている。	4

4 環境関連事業の推進

【目標の結果と評価】

環境首都を目指す北九州市の外郭団体として、より一層高い意識を持って環境事業を推進する。

取組目標	活動内容	取組結果・評価	判定
環境関連事業の推進	環境系展示会等の充実を図る。	エコテクノ2023～地球環境ソリューション展～の実施、セミナーの開催。	5
	利用者への働きかけのポスター、ステッカー等を掲示する。	クールビズ、ウォームビズ期間のお知らせ等のポスターを掲示した。	5

5 環境配慮活動の推進

【目標の結果と評価】

カーボンオフセットの推進に努めた。

取組目標	活動内容	取組結果・評価	判定
環境配慮活動の推進	脱炭素化の推進に努める。	脱炭素化：自主事業である展示会（エコテクノ2023）にて実施した。	5
	周辺美化等への参加を推進する。	周辺美化：毎月 「Love あさのクリーンアップ活動」（清掃活動）：4・9月（清掃活動 他）	5

※ 判定基準

- 5：既に取り組んでおり、効果があった。
- 4：既に取り組んでいるが、まだ改善の余地がある。
- 3：ある程度取り組んでいるが、更に取り組む余地がある。
- 2：取り組みを試みたが、活動として難しいため不可能である。
- 1：取り組んでいない。
- －：評価に適さない。



節水の啓発（給湯室）



ゴミの分別収集

6 その他

・ 「地球環境ソリューション展」・「エネルギー先端技術展」の同時開催

当協会主催の環境系展示会である「エコテクノ２０２３」について、オンラインの開催手法や環境・エネルギー関連施設の見学ツアーを取り入れながら、見本市・展示会事業を実施した。「エコテクノ２０２３」では、「地球環境ソリューション展」と「エネルギー先端技術展」を同時開催することにより、北九州地域における新たな環境・エネルギー産業の育成に寄与するとともに関連技術の普及に努めた。

・ 省エネの推進

新館事務所内では、業務時間外（昼休み等）に照明を消灯している。

また、本館（大・中展示場）及び展示場新館の天井照明を全面LED化し、CO₂の削減に努めた。

・ 消防・水防訓練の実施

施設全体で、小倉北消防署監督のもと自衛消防訓練を実施した。

また、水防法に基づき自衛水防組織を編成し、夏季豪雨災害に備えた訓練を実施した。

・ 九州グリーン購入ネットワーク（九州GPN）の参加及び支援

九州グリーン購入ネットワークに会員登録するとともに、グリーン購入の推進に努めている。

・ 他団体との連携、協働による地域清掃活動の実施及び参加

【小倉駅新幹線口地区振興連絡会 事務局として実施】

「Loveあさのクリーンアップ活動」：４月・９月

【参加】

「周辺美化」：毎月



Loveあさのクリーンアップ活動の様子

Ⅵ 次年度（令和6年度）の環境経営計画（取組）

1 二酸化炭素排出量の削減

取組目標		活動項目	
1	電気使用量の削減	1	空調の必要性に留意し、基準温度を夏期間28℃、冬期間19℃とする。
		2	不要電力消費の抑制（不要箇所の消灯）を心掛け、長時間席を離れる時（2時間以上）はパソコンの電源を落とすかスタンバイにする。
		3	トイレのエアタオルの使用削減に努める。
		4	近い階への移動は階段を利用する。
2	燃料使用量の削減	1	公用車の利用は必要最低限とし、近場への移動は自転車を利用する。
		2	公用車の購入は低燃費、低排出等の環境性能を必ず考慮する。
		3	エコドライブを心掛け、一時駐車の際、アイドリングはしない。

2 廃棄物排出量の削減

取組目標		活動項目	
1	廃棄物の削減	1	ペットボトルキャップの回収、空き缶プルトップの回収を行い、廃棄の削減と併せてボランティア活動にも協力する。
		2	パンフレット等の作成時に、必要部数を精査し無駄の無いよう心掛ける。
		3	DM や郵送物の顧客を整理し、宛名不明等による戻りの削減に努める。
2	3R の推進	1	コピー用紙の無駄を無くし、裏紙の利用の徹底や、両面コピーを心掛ける。
		2	展示会での備品等のリユースを心掛ける。
		3	新聞やパンフレット等の古紙をリサイクルする（業者に回収委託）。
		4	かん・瓶・ペットボトルの分別を行い、リサイクルする（業者に回収委託）。
		5	クリアファイルの代替として紙ファイルを導入する。

3 水使用量の削減

取組目標		活動項目	
1	水使用量の削減	1	節水を呼びかける啓発シールを貼る。
		2	配管の点検を行う。

4 環境関連事業の推進

取組目標		活動項目	
1	環境関連事業の推進	1	環境系展示会等の継続・充実を図る。
		2	利用者への働きかけのポスター、ステッカー等を掲示する。

5 環境配慮活動の推進

取組目標		活動項目	
1	環境配慮活動の推進	1	カーボンオフセットの推進に努める。
		2	周辺美化等への参加を推進する。

VII 環境関連法規等への違反、訴訟等の有無

当協会が遵守しなければならない主な環境関連法規は、北九州市条例、廃棄物処理法、消防法、フロン排出抑制法であり、それらの遵守状況を確認した結果、違反はなかった。また、関係機関等からの違反の指摘、利害関係者からの訴訟や苦情もなかった。

VIII 代表者による全体評価と見直し結果（総括）

令和5年度は、エコアクション21認証取得対象範囲に当協会観光事業部の活動を新たに追加することとなった。また、環境経営目標についても、前年度（令和4年度）を基準に設定し環境負荷の削減に取り組んだところである。

環境負荷実績については、二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、排水量のいずれも目標値を上回る結果となった。これは、施設利用や北九州市を訪れる観光客が令和元年度以前の数値に戻りつつあることにより、各エネルギーの使用量が上昇したものと考えられる。

当協会では、今後ますます社会活動が活性化する中であっても、職員が一丸となり周辺清掃をはじめとした環境活動に取り組むとともに、環境負荷を考慮に入れた事業運営にあたることで二酸化炭素や廃棄物等の排出量の更なる抑制に努めたい。

また、環境負荷目標を達成には、北九州市の事業等との連携が不可欠であるため、今後も連携を密にすることで目標を達成できるよう取り組む。

特に、北九州市の環境政策方針の一つでもある「超低炭素社会・脱炭素社会の実現」では、温室効果ガスの削減を図るため、省エネの推進等を積極的に進めており、当協会でも各施設のLED化を進めているところである。

当協会は、「SDGs 未来都市」に選定された北九州市の外郭団体であり、公益法人としての社会的役割を果たしつつ、SDGsの観点を強化しながら、さらなる事業を展開することでより良い影響を社会にもたらせるよう取り組む所存である。